

## 「北九州国際映画祭」 【特別企画】青山真治監督・追悼特集上映を実施

令和5年12月13日～17日に開催する「北九州国際映画祭」の期間中、令和4年3月に逝去された青山真治監督の追悼特集上映を、青山監督の出身地である北九州市の映画祭において、特別企画として実施いたします。

### 1 企画概要

映画監督・青山真治氏の追悼上映企画として、北九州サーガ3部作とされる、長編映画デビュー作『Helpless』、カンヌで世界の絶賛を浴びた『EUREKA ユリイカ』、3部作の最終章『サッド ヴァケイション』。さらには同名の芥川賞受賞作を原作とした『共喰い』、『東京公園』、最後の劇場公開となった『空に住む』まで、青山監督作品を北九州市の映画館で特集上映し、その軌跡をたどります。映画監督にとどまらず、音楽家、小説家としても活躍し、舞台演出、批評家でもあった監督と関係の深い関係者、同作品の出演者等をゲストに迎え、青山監督とのエピソードや、作品に対する想いなどを語っていただきます。北九州の地で、かつて青山作品が上映された映画館で、もう一度青山真治作品と向き合う特集として企画いたします。

#### (1) 実施期間

令和5年12月14日（木）～17日（日）

#### (2) 実施場所

市内映画館

#### (3) 上映作品・ゲスト

『Helpless』(1996)、『EUREKA ユリイカ』(2000)、  
『サッド ヴァケイション』(2007)、『東京公園』(2011)、  
『共喰い』(2013)、『空に住む』(2020)を予定。

上映スケジュール、詳細は今後、発表いたします。

## 2 青山真治監督プロフィール

写真：青山真治 撮影：池田正之

1964年福岡県北九州市出身。

1996年、地元・福岡県の門司を舞台にした『Helpless』で長編映画デビュー。自ら脚本・音楽も手がけた本作は低予算ながら、その乾いた人間関係や暴力描写などが高く評価され、トロント、ウィーン、トリノなど数多くの国際映画祭に出品される。

その後も『チンピラ』(96)、『WiLd LiFe』(97)、『冷たい血』(97)、『シェイディー・グローヴ』(99)、『EM/エンバーミング』(99)など精力的に作品を送り出す。

そして2000年の監督作品『EUREKA ユリイカ』で、第53回カンヌ国際映画祭コンペティション部門に招待され、国際批評家連盟賞とエキュメニク賞をW受賞するという快挙を成し遂げる。

更にベルギー王立フィルムアーカイブより「ルイス・ブニュエル黄金時代賞」を獲得し、名実ともに世界にその名を知られるようになる。

以降も、作家・中上健次を巡るドキュメンタリー『路地へ中上健次の残したフィルム』(00)、2年連続でカンヌ国際映画祭コンペティション部門に招待された『月の砂漠』(01)、ベルリン国際映画祭に出品された『私立探偵濱マイク・名前のない森』(02)、東野圭吾原作ミステリーの映画化に挑んだ『レイクサイド マーダーケース』(04)と作品を重ねる。

05年には、『エリ・エリ・レマ・サバクタニ』でカンヌ国際映画祭“ある視点”部門へ、翌06年の『こおろぎ』、そして07年の『サッド ヴァケーション』(07)では2年連続でヴェネチア国際映画祭オリゾンティ部門に招待されるなど、日本が誇る世界的映画監督である。

また自らの監督作品等で脚本を手がける一方、01年に初めて手がけた自作のノベライズ小説『EUREKA』で第14回三島由紀夫賞を受賞するなど小説家としても活動。

05年には『ホテル・クロニクルズ』で第27回野間文芸新人賞候補にノミネートされた。

2011年の『東京公園』では、小路幸也の原作を柔らかであたたかな視線で映像化し、新境地をみせている。この作品で、第64回ロカルノ国際映画祭にて、金豹賞(グランプリ)審査員特別賞を受賞。

また、同年、舞台初演出となる作品「グレンギャリー・グレン・ロス」(出演:石丸幹二、坂東三津五郎 他)が、銀河劇場を皮切りに公演となった。

続いて、「おやすみ、母さん」(出演:白石加代子・中嶋朋子)を池袋あうるすぽっとで、公演。その後も、数々の舞台演出に挑戦している。

2013年には『共喰い』で、第66回ロカルノ国際映画祭にて、ポッカリーノ賞最優秀監督賞を受賞、第68回毎日映画コンクールで脚本賞と撮影賞も受賞。

2015年には、WOWOW連続ドラマ「贖罪の奏鳴曲」にて、久しぶりの連続ドラマに挑戦し、好評を得る。

2018年には、大学の教職を辞して、再び映画業界に戻る。NHKBSプレミアムドラマ「金魚姫」(2020年3月放送)。

2021年に公開された『空に住む』が遺作となった。2022年3月21日食道がんのため57歳で逝去。



## 「北九州国際映画祭」 【特別企画】松本零士氏・追悼上映会を実施

令和5年12月13日～17日に開催する「北九州国際映画祭」の期間中、令和5年2月13日に逝去された松本零士氏の追悼上映会を、特別企画として実施いたします。

### 1 企画概要

松本零士氏原作の映画作品を、松本氏が小学校4年生から高校生ままで暮らしていた北九州市において上映し、ゆかり深いゲストを迎え、松本氏とのエピソードなどを語って頂きます。

#### (1) 実施期間

令和5年12月15日（金）～17日（日）

#### (2) 実施場所

市内映画館

#### (3) 上映作品・ゲスト

3作品上映予定

上映スケジュール、詳細は今後、発表いたします。

### 2 松本零士氏プロフィール

1938年1月25日に福岡県久留米市で生まれ、戦後東京に出るまでを小倉で過ごす。漫画家。

6歳の頃から絵を描き始め、9歳で運命的な本（『新寶島』『月世界紳士』いずれも著者は手塚治虫先生）との出会いをきっかけに漫画を描き始める。

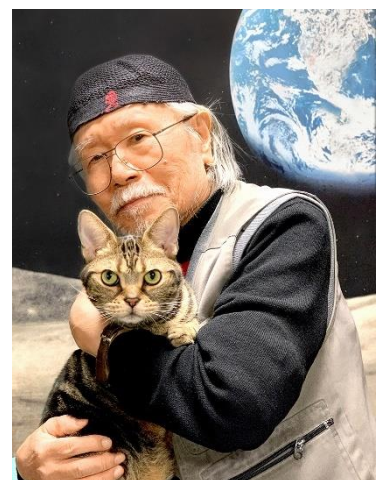
15歳の時に投稿作『蜜蜂の冒険』が「漫画少年」の第一回漫画新人王で新人王を受賞して掲載された。これが商業誌デビューとなる。

18歳の時に手塚先生のお手伝いを一度したことはあるが、誰かのアシスタントについて師事することは無く、独学で漫画の画法を身に付けていく。

実質的な漫画家デビューは1957年「少女」掲載の『黒い花びら』。しばらくは少女漫画誌での執筆が続く。

1968年代に入り青年漫画誌が誕生し始めたころ「漫画ゴラク dokuhon」に『セクサロイド』を発表。

以降、青年漫画誌での執筆が増え、少年・青年漫画のジャンルで活躍するようになった。



©松本零士／零時社

1970年代にはアニメーション作品に関わることも増え、多くの作品がアニメーションとしてテレビ放送や劇場公開され、SF 漫画・アニメブームの火付け役となり、作品は日本を飛び出し世界中に広まった。

活動の範囲は、漫画の執筆だけにとどまらず。(公社)日本漫画家協会の常務理事(2000年~2018年)として漫画家の地位向上等に取り組んだり、(公財)日本宇宙少年団の理事(1994年~2021年)として、宇宙・科学をテーマとした青少年教育活動にも力を注ぐなど、多くの団体で要職にあずかり精力的に各地を飛びまわっていた。

2023年2月13日星の海に旅立つ。(享年85)

代表作・『男おいどん』『ガンフロンティア』『宇宙戦艦ヤマト』『クイーンエメラルダス』『ザ・コックピットシリーズ』『宇宙海賊キャプテンハーロック』『銀河鉄道999』『新竹取物語1000年女王』ほか。

## 「北九州国際映画祭」 【特別企画】みうらじゅん氏セレクション 松本清張作品上映会を実施

令和5年12月13日～17日に開催する「北九州国際映画祭」の期間中、松本清張ファンとして知られ、『清張地獄八景』（文春文庫）の編者でもある、みうらじゅん氏がセレクションする松本清張作品の上映会を特別企画として実施いたします。

### 1 企画概要

みうらじゅん氏にセレクション頂いた松本清張作品を上映し、作品の対する想い、見どころなどを語って頂きます。\*ビデオメッセージ

#### (1) 実施期間

令和5年12月14日（木）～17日（日）の間で調整中

#### (2) 実施場所

J:COM北九州芸術劇場

#### (3) 上映作品

3作品上映予定

上映スケジュール、詳細は今後、発表いたします。

### 2 みうらじゅん氏プロフィール

イラストレーターなど

1958年2月1日京都市生まれ 血液型 AB 型  
1980年 武蔵野美術大学在学中に漫画家デビュー  
1997年 「マイブーム」で新語・流行語大賞受賞  
2005年 日本映画批評家大賞功労賞受賞  
2018年 仏教伝道文化賞 沼田奨励賞を受賞

